

趣旨説明

広島大学 布川 弘

広島大学大学院の総合科学研究科の布川と申します。簡単に今回の合評会を開催させていただく趣旨を述べたいと思うのですが、実は 2010 年に当時九州大学におられた有馬学先生から、辛亥革命 100 周年ということで何かやれないかというお話がありました。特に有馬先生は広島大学の東洋史の方々のご研究というのを注目されておられて、それを中心として何か面白いことをやらないかとおっしゃいました。ちょうど曾田先生の前著『立憲国家中国への始動：明治憲政と近代中国』（思文閣出版、2009 年）が刊行された時だったので、それを中心として何か議論をしようということになりました。ご存知のように曾田先生は、中国近現代史は中国一国史的な把握では捉え切れないというようなことをずっと言われていて、特に日本史との関係を絶えず意識しながら研究されていて、その成果が著書に現れたということで、日本史の方でも非常に考え方や見方を変えなければいけないという、そういう思いがありまして、それで日本史も加わって合同で 4 年前に開催させていただいたということなのです。ちょうど今回『中華民国の誕生と大正初期の日本人』というご本を曾田先生が出版され、この本というのはその時に議論になったことに対する曾田先生の答えを中心にして、さらに日本の知識人の言論により深く入ってこられて、それが中国にどう影響をしたのかという視点、逆に日本史がそれによってどう規定されているのかという視点が入って、より前著の問題関心を深められたと思っております。それで当然今回の著書も前著とセットで、もう一回問題にしなくちゃいけないと考えています。曾田先生はかなり慎重に提起をされているのですが、よくよく読んでみると日本史像をどう書き替える、というご指摘のような気がいたします。そして、単に日本史像を変える、書き替えるだけではなくて、日中、そして日中のみならず新しい歴史像、一国史にとどまらない新しい近代現史像をどのように作っていくかという、そういう非常に大きな問題提起をなされていると思いましたので、前回のシンポジウムをふまえて、さらにその問題を発展させて深めさせていきたいというのが、今回の趣旨であります。

今回日本史の方では、わざわざ学習院大学から千葉功先生においでいただきました。なぜ千葉先生にお願いしたかといいますと、千葉先生は 2008 年に『旧外交の形成：日本外交 1900～1919』（勁草書房）という非常に大部な本を出版されています。この本は日本史の方では話題になった本で、日露戦争の捉え方を始めとした対外関係、外交関係というものを、大きく捉え返してこられたというか、大きくイメージを変えた本です。ちょうど『旧外交の形成』が扱っている時期が、曾田先生の前著と今回の著書がカバーしている時期とほぼダブるということですね。それで曾田先生が問題提起されたことを受けとめて、新しい日本史像を新しい日本政治史像ということを考える時に、どなたがそれを受け止めてやってくれるかということを考える時に、これは千葉先生しかいないだろうということになって、それで敢えて今回お願いしたというわけです。もちろん

中国史の方からの見方というのもありますので、一番曾田先生のご専門に近い金子先生の方からお話いただいて、僕のコメントは付け足しみたいなことで、とっていただければと思います。だいたいこういうような趣旨で今回の合評会を開催させていただきました。

水羽信男：

ありがとうございます。では千葉さんの書評をお願いいたします。40分から50分くらいの報告ののち、簡単な語句の確認程度の質疑をと思っております。よろしくをお願いいたします。